

進路通話 足跡 Step by Step

平成28年 7月1日発行 No. 3

全校朝会「校長講話」

”自分と向き合う”

1 家庭学習について

家庭学習ノート2冊目に入る生徒の様子についてのお話があった。各学年30～45名程度の生徒が校長先生へ2冊目の学習帳をもらいにやってきた。その家庭学習の内容から3名の生徒の変化について話していました。

A: 始めは字が雑だったが、終末にむけて字の丁寧さが変化した生徒。

B: 始めは空白が多くあったが、終末には空白が無くなり内容もより充実してきた生徒。

C: 始めは色なし(えんぴつのみ)であったが、日を追って色が加わり、自分がポイントにしている部分や大事な事柄をわかりやすくまとめることができてきた生徒。

どちらの生徒も工夫があるという事。それは家庭学習を通して自分と向き合う姿勢が出来てきた事だと校長先生はお話していました。

また、教壇にある「半分水の入ったコップ」を”もう半分しか無い”と思うのか”まだ半分もある”と考えるのかで人の進みかたは変わると深お一言を残して校長講話は終わりました。私は”もう半分しか・・・”と一瞬よぎった自分に「はっ」とさせられました。校長先生ありがとうございました。

～学年集会 圭吾先生のお話～

”受験は順番”

どんなに優秀な人材でも、20名の定員で21番目なら落ちる。だから”1点の重み”をしっかり考え”もっと貪欲に取り組む姿勢をつくる！

受験の得点は1点の差で5～6名の差があるので、並んだ時には、小さな積み重ねの証「家庭学習継続証」「皆出席」などの努力の跡が勝敗を決める。

最近の数名の”授業中の伏寝”は、自分に負けている証拠だと思う。それでは勝負にならない事を自覚して成長してほしい。

普段クールな圭吾先生の”熱意”を受け取って1学期の締めくくりをしていきましょう！

推薦入試について (学年集会)

1 自分に推薦入試をうける資格があるか考える

(1) 校内基準を見直す。

(2) 志望校の基準を知る。

※該当する項目や、まだ努力が足りない部分を知り、これから間に合うかを考える。

2 決めたら後には引かない覚悟をする。

校内推薦を申し込んだら、他校への目移りは禁止です。そこから何回もの会議を得て校内推薦者が決定します。その中で推薦者に周りが求める事は多々あり、校内推薦が内定し・志望校の内定が決まった後も推薦者としての行動が求められます。その為大きな決心・覚悟がなければいけません。

3 表現方法・分野を決める

(1) 自己表現

下記の分野において、全国・県・地区レベルの活動があり、それを証明するもの(賞状・書類)がある事。

(ア) 文化活動

(イ) スポーツ活動

(ウ) 社会活動

(エ) ボランティア活動

(オ) 資格取得等の活動

※志望校によって、判定基準があり配点も様々な集団よりも個人の方が評価が高い。

(2) 個性表現

下記の分野において、1つの事を極めていること。その活動を実際に面接の場で表現し、判断してもらう。

(ア) 音楽、美術、書道等の芸術分野

(イ) 文芸、研究等の分野

(ウ) 舞踊、創作ダンス、手話等の身体的活動を伴う分野

(エ) 留学等の体験的分野

※判定の基準は、(1)自己表現と同じであるので、証明する書類は無いが、同等のレベルは求められる。

あくまでも沖縄県立の高校学校の推薦入試ですので、県外や私立を希望する生徒は、志望校の志望県の推薦入試の方法で行います。